【授業科目】看護技術論Ⅰ（基礎援助技術）　Fundamental Nursing Art Practice Ⅰ

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
久留島 実姫、中村 いお美	１年次 前　期	必　修	２	３０	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／本科目は、学生個々の主体的な学習を基盤に、看護の対象となる人々が心身ともに健康な生活を送ることができるよう援助するために必要な看護技術を習得する。授業では、看護技術のエビデンス、安全性、安楽性を意識しながら、よりよい看護を提供するための思考力と実践力を養う。授業形式は、講義だけでなく演習を通して知識と実践が統合できるよう展開する。なお、毎時間グループディスカッションを行う。 課題に対するフィードバック方法/①提出された課題にコメントをつけて返却する。②講義時に全体に対してコメントを口頭で述べる。③全体に対するコメントをまとめたものを提示する。①②③いずれかの方法で行う。
実務経験に 関する 授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な患者観察、コミュニケーション、環境整備の知識と技術について、事例（シナリオ）、知識カードを用いて、ディスカッションを交えながら学生の主体的な学習を支援していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	１．看護実践プロトコルに沿った患者観察サイクルについて述べることができる。 ２．言語的・非言語的コミュニケーション技法を用いてコミュニケーションができる。 ３．安全性・安楽性・自立/自律性と効率性を考慮した看護技術を用いて援助を実施できる。
時間外学習に 必要な 内容・時間	【事前学習】第２回～15 回 １.該当部分の教科書を読む。 ２.Teams に提示された事前課題、クイズに取り組み、期限内に提出する。 ３.必要時、該当部分の動画を視聴する、又は実習室で自己練習を実施する。 【事後課題】第１回～15 回 １.Teams に提示された事後課題、振り返りに取り組み、期限内に提出する。 ２.各自で講義内容を整理する。 ３.必要時、実習室で自己練習を実施する。 【必要な学習時間】 事前課題+事後課題＝4 時間／1 回 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第１回　ガイダンス/看護技術論Ⅰの学習の進め方（講義/演習）	第１回　久留島
第２回　「看護師」の心と「私」の心、「できる」看護師の心を獲得する７つの習慣（講義/演習）	第２回　久留島
第３回　看護実践スクリプト、知識カードの使い方（講義/演習）	第３回　久留島
第４回　患者と自分を感染から守る技術 【感染予防/手指衛生/スタンダードプリコーション】（講義/演習）※	第４回　久留島 第５回、６回 久留島・中村
第５回　患者観察の技術（パッと見判断、全体観察）（講義/演習）	
第６回　患者観察の技術（呼吸の変化、循環の変化）（講義/演習）	
第７回　療養環境の観察（講義/演習）	第７回　久留島
第８回　療養環境を整える技術【ベッドメーキング】（講義/演習）※	第８回　久留島・中村
第９回　患者との関係を構築するためのコミュニケーション技術（講義/演習）	第９回　久留島
第 10 回　事例を用いた患者の情報を収集するためのコミュニケーション技術（講義/演習）	第 10 回 久留島・中村
第 11 回　体位を変え、安楽な体位を整える技術（講義/講義）	第 11 回 久留島
第 12 回　事例を用いた体位を変え、安楽な体位を整える技術（講義/演習）	第 12 回～第 15 回 久留島・中村
第 13 回　臥床患者のシーツを交換する技術（講義/演習）	
第 14 回　事例を用いたシーツを交換する技術①（講義/演習）	
第 15 回　事例を用いたシーツを交換する技術②/まとめ・振り返り（講義/演習）※	

評価方法 評価基準	課題（事前課題・事後課題）：80%、学習成果の発表・技術到達度の確認：20%

教科書	1. 茂野香おる　『基礎看護学[2]基礎看護技術Ⅰ』医学書院 2. 任　和子　『基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ』医学書院 3. 池上敬一著『急変させない患者観察テクニック』　羊土社 4. 土居健太郎　『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進[2]病態生理学』　医学書院 5. 香春 知永　『系統看護学講座基礎看護学[4]臨床看護総論』医学書院	参考書等	1. 坂井 建雄他著『人体の構造と機能[1]解剖生理学』医学書院 ＊解剖生理学の授業で使用

学生への 助言等	授業は課題の実施を前提に行います。みなさんの効果的な学修活動のために必ず取り組んでください。また、本科目での資料は、原則 Teams に Up しますので、必ず各自でダウンロードまたはプリントアウトをして授業に臨んでください。 みなさんが自律的に学修されることを期待しています。